

児童会活動指導案

令和元年 10 月 29 日（火） 5 校時（13:55～14:40） 6 年 1・2 組 体育館

指導者 柳田 修平

1 題材名 「係や委員会の仕事を見直そう」

内容（1）児童会の組織づくりと児童会活動の計画や運営

2 題材観（児童の実態を含む）

本題材の小学校学習指導要領の位置付けは、児童会活動の内容「(1)児童会の組織づくりと児童会活動の計画や運営」に関わるものである。

小学校の特別活動では、社会参画のために、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせながら、集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決に向けて話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりする力の育成が求められている。特に委員会活動では、児童が自ら課題を見いだし、解決に向けて話し合い、協力して合意形成を図る実践をねらいとしている。委員会活動は、児童の自主性を伸ばし、主権者として進んで社会参画するための資質・能力を育てるために大切な取組である。また、委員会活動を通して、自己の責任や役割を果たし、自己有用感や達成感を味わうこともできる。

高学年になると、学校への所属感が高まり、活動の経験を積み重ねることで、資質・能力が育まれ、全体的な視野に立った活動も可能になってくる。しかし、本校の委員会活動の現状は、当番活動などの常時活動や各種行事に向けた活動中心となってしまうことが多く、児童が創意工夫を凝らした自主的・実践的な取組が少ない。そこで、委員会活動について見直す活動を通して、学校生活全般において共に楽しく豊かに生活するために、児童が自主的、実践的に取り組めるようにすることはとても重要である。また、こうした経験を積み重ねることで、学校の一員として「よりよい学校にしていこう」という所属感を高め、自分の所属する社会へ参画し、様々な課題を主体的に解決することができる力を高めることができるのではないかと考え、本題材を設定した。

3 研修との関わり

本研修では、群馬ヤクルト販売株式会社（以下、群馬ヤクルト）の人材開発部に所属し、従事者育成に関わる各種研修を中心に取り組んでいる。群馬ヤクルトでは、利益を目標にせず、お客様に商品のよさを知ってもらうことを大切にすることで、その結果が利益につながっていくという考え方を大切にしている。そして、その意識を全社員が共有したことで、過去最下位であった販売実績を全国トップレベルまで引き上げるという成果を挙げている。さらに、その成果に満足せず、停滞しない企業を目指し、今年度は従事者エンゲージメントを高めることを目標の一つとしている。社員一人一人を主役と考え、自己有用感をもてる風土を築くことで、仕事や会社に対して自主的に貢献しようとする従事者の意欲を高めることを目指している。

そこで、群馬ヤクルトの取組を参考に、学校全体で「のつけっ子になる」という目標を共有し、そのための活動を自分たちで考え、児童一人一人が自己有用感をもてる風土を築くことによって、児童の学校への所属意識が高まり、自主的、実践的な取組につながっていくと考えた。そして、その共通の意識に基づいた活動を行い、振り返ることで、よりよい学校にするための課題を見いだし、主体的に解決する力を高めることにつながるのではないかと考える。

4 指導方針

- (1) 学習課題を把握する場面では、委員会の本来の役割について確認したり、群馬ヤクルトにおける会社の目標を達成するための様々な取組について紹介したりすることで、関心をもって学習に取り組むことができるようにする。
- (2) プロジェクトについて考え話し合う場面では、具体例を紹介したり、考える活動の方向付けをしたりすることで、見通しをもって活動に取り組めるようにする。

- (3) 授業後、各委員会で宣言した内容を次回の委員会活動で練り、児童の玄関に掲示することで、全校児童の関心と、高学年児童の実践意欲を高められるようにする。
- (4) 各委員会の実践後、自分たちの考えた活動の効果について振り返り、自主的、主体的に活動することの楽しさやよさを感じ取れるようにする。

5 評価規準（事前の活動→本時の活動→事後の活動）

評価規準	集団活動や生活への関心・意欲・態度		
	集団の一員としての思考・判断・実践	楽しく豊かな学校生活にするために、課題に向き合い、友達と協力して解決に向けた方法について話し合い、取り組む内容を決めることができる。	
	集団活動や生活についての知識・理解	楽しく豊かな学校生活を作る児童会活動の意義や組織、そのための活動内容、方法などについて理解している。	
時間	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動
	知識・理解	思考・判断・実践	
事前の活動			<ul style="list-style-type: none"> ・前期委員会活動を振り返る。 ・後期委員会活動についてアンケートを実施する。 ・指導者が企業でどのように過ごしてきたのか、写真や動画で紹介する。
本時の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動を工夫し、組織としての役割を果たすことができる。 ・楽しく豊かな学校生活を作ることを理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に向き合い、友達と協力して解決に向けた方法について話し合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを確認する。 ・アンケート結果を提示し、委員会活動の現状を振り返る。 ・楽しく豊かな学校生活にするために委員会でどのようなプロジェクトが可能か考え、発表する。
事後の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・決定したプロジェクトについて、5年生を含む委員会で協力して実践することの意義や方法について理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトを実践し、今回のプロジェクト以外にも、全校児童のためにできることを考え、新たなプロジェクトに取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会ごとに決めたプロジェクトについて分担や時期を決め、プロジェクトを実践していく。 ・新しいプロジェクトを考え、実践していく。

6 本時の学習指導

- (1) **目 標** 委員会の役割について理解し、楽しく豊かな学校にするために各委員会でできるプロジェクトを話し合い、決定することができる。
- (2) **準 備** 【教員】資料、プロジェクタ、ワークシート、付箋紙
【児童】筆記用具、プロジェクト案

(3) 展 開

<p>学習活動 予想される児童の反応</p>	<p>時間</p>	<p>指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価) (太字はキャリア教育との関わり)</p>
<p>1 つかむ (課題の把握) ○朝活動で紹介された内容を振り返る。</p> <p>○アンケート結果から、委員会活動の現状について考える。</p> <p>— 予想される児童の反応 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本来の役割を果たせていないな。 ・乗附小のために○○のようなことをやってみたいな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【めあて】 みんなが「のつけっ子」になるためのプロジェクトを考えよう！</p> </div>	<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に、企業でどのような仕事をしているのかプレゼンテーションソフトを用いて、写真や動画を提示しながら説明する。その際、会社の目標や、目標に向けて複数の部門が活動していることに触れる。 ・アンケート結果を分かりやすくまとめて、提示することで、本来の委員会の役割と自分たちの活動の実態が合っていないことが気付けるようにする。 ・企業のように、自分たちも委員会活動を通して学校教育目標を達成するために工夫しようという意欲を高める。 ・「のつけっ子」という目標が達成できた姿を共有することで、自主的・実践的な活動につながるようにする。
<p>2 さぐる (可能性への気付き) ○事前に考えてきた取組について、めあてを達成するプロジェクトになるかを考え、一つ選び付箋紙に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下は右側を静かに歩こう ・乗附小びかびか週間 ・体力アップ週間 <p>3 見付ける (解決方法等の話し合い) ○思考ツール (座標軸) を用いて、各委員会で話し合い、実践するプロジェクトを一つ決める。</p>	<p>25分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常時活動ではなく、「きまりを作り、知らせ、守ってもらう活動」「○○大会、○○祭り、○○週間など、日にちや期間を決めて行う活動」の二つに絞ることで、考えの方向付けをする。 ・個人で考える時間を確保してから委員会ごとに集めることで、全員が自分の考えをもって話し合いに臨めるようにする。 ◇児童会活動の意義や組織、そのための活動内容、方法などについて理解している。(観察・ワークシート) ・話し合いの際には「目標の達成に効果的か」「全校児童が意欲をもてるか」という視点を与えることで、自分たちの委員会でするよりよい活動は何か議論できるようにする。 (課題対応能力) ・持ち寄ったプロジェクトについて、座標軸を利用して考えさせることで、目標に近付けるプロジェクトを選べるようにする。 ・話し合いでは、話し合って新しい活動を考えてもよいことを伝えることで、活発な議論が行われるようにする。 (人間関係形成・社会形成能力) ◎各委員会の担当教諭に参加してもらい、目標に向けた話し合いが深まるようにする。 ◎話し合い活動がより深められるように、ヒントカードとして前期委員会の児童が考えた案を

		<p>利用する。 ◇課題に向き合い、友達と協力して解決に向けた方法について話し合い、取り組む内容を決めることができる。（観察・ワークシート）</p>
<p>4 決める ○各委員会で決まったプロジェクトを宣言用紙に記入し、発表する。</p> <p>○本時の振り返りをワークシートに記入する。</p>	<p>15分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『私たち〇〇委員会は、みんなが「のつけっ子」になれる学校にするために、□□を実施します!』という、宣言の型を作って、委員会の全員で目標を共通理解させることで、実践意欲を高められるようにする。 ・各委員会で決定したプロジェクトが書いてある紙を発表の際にプロジェクトで映すことで、全体で確認しやすいようにする。 ・宣言の後は、そのプロジェクトを応援するつもりで盛大に拍手するよう促し、学校全体で取り組もうという意識をもてるようにする。 ・委員会で決めたプロジェクトに対し、個人で取り組める目標を立てさせることで、自主的にプロジェクトに参加できるようにする。 ・本時の振り返りを行うことによって、達成感を感じたり、友達と協力することのよさを感じたりすることで、次時の活動に意欲的に取り組めるようにする。